

## 1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0872901004		
法人名	社会福祉法人 河内厚生会		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地 (電話番号)	茨城県稲敷市高田2817-2		(電話)029-834-5225

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年1月30日	評価確定日	平成20年6月4日

## 【情報提供票より】(平成20年1月15日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 30 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	5 人
職員数	10 人	常勤 3人, 非常勤 7人, 常勤換算 4.8人	

## (2)建物概要

建物形態	(併設) 単独	新築 (改築)
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	(有) (150,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,050 円

## (4)利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	5 名	男性 1 名	女性 4 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名
要介護3	1 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.4 歳	最低 71 歳	最高 96 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	・医療法人美湖会 美浦中央病院 ・医療法人社団広文会 江戸崎病院
---------	----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家を改築したホームは昔のつくりの建物を上手に活かしたり、手を加えたりされている。民家の良さが残るホームである。ホーム内もとても家庭的な雰囲気を作り出している。デイサービスが同じ建物の中にあり、お互いに行き来のできるようになっており、交流が持てる場にもなっていた。利用者は思い思いに自由に過ごしている様子が窺え、職員の対応もゆったりとしており落ち着いたものであると感じた。両者のコミュニケーションは良好であると感じられる。管理者、職員は質の高いケアが提供できるように、日々様々な取り組みに向け向上心を持ち取り組んでいる。今後は地域との協働を図りながらサービスに繋げられるよう期待したい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>同じ事業所内施設の管理栄養士の協力を得ながら、1週ごとに職員が作成したメニュー表をみてもらい、指導・助言を貰っている。それを基にメニュー作成に役立てて食事の提供をしている。現在も継続して取り組んでいる。献立表には管理栄養士の評価やコメントが記載されていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の作成にあたっては、管理者、職員が評価項目に沿って意見を出し合ったり、見直しをしたりと、全員で取り組み作成されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>昨年はまだ運営推進会議について理解しきれないでいたこともあり、まだ会議の開催は実施されてはいない。メンバー選出もされ、日程も決まっておりに向けて進行中である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>現在までに苦情はない。家族からの意見や不満など面会時に聞いたり、アンケートの実施も行っている。要望も聞くようにしており、病院までの送迎や受診、入院などに関する事等、家族とやりとりしながら対応している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会への入会が決まっておりに、回覧板利用などについて地区区長と連絡を取り合いながら連携を図っている。地域クリーン運動などの活動にも利用者、職員共に参加している。今後も更に交流を深めながら取り組む方向である。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の社訓はあるが、グループホームの考えを基本として作られており、理念を具体化した独自のものである。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念についてミーティングや日常生活の中で共に確認・話し合いを持ちながら共有に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方と氏神様の奉納祭を行ったり、地域の祇園祭りやクリーン運動などに参加し交流を図っている。今後は自治会の入会が決まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己・外部評価の意義を理解したうえで、管理者と職員で共に考えながら作成がなされた。前回の評価について改善すべき点は積極的に取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これから開催予定であり一回目の議題や会議の日程、メンバーなどは決定しているが、まだ開催はされていないとの事で判断した。	○	現在、開催に向けて準備をしている。今後はメンバーに民生委員やPTA役員をいれる予定とのことで今後に期待したい。

茨城県 グループホームひだまり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の高齢福祉課にホーム立ち上げ時から足を運び、担当者と連絡を密に取っている。民生委員や区長にもホームに来てもらうなど取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>利用者の様子や金銭に関する事など電話や書面、面会時など連絡・報告はしているものの、定期的ではないということで判断した。</p>	○	<p>家族への安心感や更なる信頼関係の構築のためにも今後は定期的な報告が出来ることが期待される。</p>
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの意見や不満だけではなく、病院受診や入院に関することの要望や希望も聞き、相談しながら家族とのやりとりを行っている。管理者のみではなく、職員も聞ける関係づくりに努めている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の移動は行っておらず。職員離職の際は、事業所の方針として利用者への挨拶などは行わないことをダメージを防ぐ配慮としている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内外の研修や月1回の勉強会などの機会を設けている。外部の研修案内を知らせ、希望者には参加してもらっている。</p>		<p>今後も研修に関する関心を職員に持ってもらえるよう、取り組みを継続して欲しい。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>デイサービス併設のためケアマネの訪問は多いが、他の事業所・グループホームとの交流は乏しいとのことで判断した。</p>	○	<p>同業者との交流する機会をもつことにより、情報を得て、それらをケアに反映できる可能性もあり、職員の質の向上にも繋がると思われる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や無料体験ができる。併設のデイサービスの利用をすることで、ホームに段階を踏んで慣れてもらいながら始めることもできる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	いつでも一緒に何かを行うことが多く、双方の立場がお互いに一緒であると考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から情報収集をし、記録に残し、職員間での把握、共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は三者で要望や意見を取りいれながら、統一したケアができるように作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況に応じて、随時モニタリングを行っており、とてもわかり易い記録となっている。ミーティングには介護計画に関する議題も取り入れられている。		書式を新しいものに変えたことにより、今後は十分に活用できることが期待できる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の身体状況や家族の要望に応じて対応可能なことを入居の説明時に伝えている。事業所側でも、支援できるように地域施設との連携体制が整っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に応じた医療機関への受診は可能である。協力医療機関との連携はとれており、毎月1回の訪問診療などが受けられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの終末期に関する方針を入居の説明時に家族に話されており、重度化の場合の話し合いが今後必要になることも家族には了解を得ている。		口頭での説明だけではなく、終末期に関する方針や同意書の書類を作成していくことが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はプライバシーの重要性を認識しており、一人ひとりにあった対応を心がけている。個人情報の取り扱いについては入居説明時に家族に口頭と書面にて説明・同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望やどう過ごしたいかなど朝食時間を利用し、話して決めている。職員は一人ひとりの生活リズムやペースを大切に考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に調理や片づけなどを行い、食材を見ながらその都度メニューを決め、一般家庭と同じような感覚で支援している。利用者の意見や要望を聞き、楽しみの一つになるように職員は努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間の決まりはなく、一日に二回の入浴・朝の入浴など個々の様々な希望に応え、対応している。本人専用の洗面用具を使用するなど、工夫もして楽しめるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に聞いたこれまでの生活歴や習慣などの情報を基に、日々の気付きを個人記録に残し、活用しその人らしい暮らしが継続できるように取り組んでいる。個人記録の閲覧や申し送りでの伝達などしながら職員間での情報の共有に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩や買い物はもちろんだが、歴史民族資料館や図書館などの公共の施設や、近隣の公園や川などに行き季節感を味わうなど外出の機会を設けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全体で十分理解して取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に関しては、消防署による防火管理者研修の受講が済んでおり、今後、訓練を受ける予定が決まっているが、災害という大きな枠での意識がやや低いと思われるため判断した。	○	職員全体で災害対策としての再認識をすると共に、これまで以上に消防署や地域との働きかけに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を管理栄養士に見せ指導を貰ったり、個別に医師の指示を貰いながら水分摂取には十分な配慮をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や台所など、普通の家と変わらないような内装・物品で工夫をし、家庭的な雰囲気を醸し出している。花などで季節感もあり、心地よい環境となっていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個々の大切なものや以前から使用していた物が持ち込まれており、一人ひとりの個性にあった居室となっている。		